

公立・公的病院の役割の再検証について（碧南市民病院）

1 取り巻く環境を踏まえた自院の役割

（1）西三河南部西構想区域の病床機能

	高度 急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟	合計
2019年の 病床機能報告 ①	347	2,382	903	1,010	79	4,721
2025年の 必要病床数 ②	585	1,703	1,770	940	—	4,998
差引(①-②)	▲238	679	▲867	70		▲277

資料：地域医療構想（平成 28 年 10 月）

西三河南部西医療圏の地域医療構想では、高度急性期は 2025 年の必要病床数 585 に対し 2019 年の病床機能報告が 347 で 238 の不足、急性期病床は同 1,703 に対し 2,382 で 679 の過剰、回復期病床は同 903 に対し 1,770 で 867 の不足、慢性期病床は同 940 に対し 1,010 で 70 の過剰となっています。従って全病床数としては 2025 年必要病床数よりまだ 277 床不足となっています。

（2）西三河南部西構想区域の人口推移



資料：国立社会保障・人口問題研究所（2018 年 3 月推計）

総人口は、2030年まで微増し、2030年以降は微減します。64歳以下人口は継続的に減少し、65歳以上人口は2040年までに対2015年比で38%の増加となります。特に75歳以上の人口は、2040年には2015年の1.62倍になると見込まれています。

(3) 西三河南部西構想区域の医療資源等の状況

人口10万対の病院の病床数は、県平均の75.5%と少なくなっており、療養病床数は県平均の115.5%と多くなっています。

入院患者の自域依存率は、4機能区分全てが80%以上で非常に高くなっており、近隣の二次医療圏からの流入も多くみられます。

(4) 2025年を見据えた自院の役割

令和2年3月の西三河南部西地域医療連携推進ネットワーク総会において、2千台以上の救急車受入実績を有する5病院（安城更生病院、刈谷豊田総合病院、西尾市民病院、八千代病院、碧南市民病院）により急性期五病院協定を締結し、連携強化を行うとともに、高度急性期、急性期医療の充足と機能分化を推進しています。

西三河南部西医療圏では2025年には回復期機能が不足すると予測されており、特に高齢者の医療ニーズが増加することを踏まえて、急性期機能に限らず、地域包括ケア病棟や訪問看護ステーションを活用することで多様なニーズに対応する体制を整備していきます。

2 自院の今後の方針等

(1) 分析対象領域ごとの医療機能の方向性（機能統合や連携など）

① がんについて

年間の悪性腫瘍手術は154件（術中迅速病理組織標本作成25件）、化学療法は1,812件、抗悪性腫瘍局所持持続注入は395件行っています。

地域がん診療連携拠点病院（厚生労働大臣指定）に指定されている厚生連安城更生病院、がん診療拠点病院（愛知県知事指定）に指定されている刈谷豊田総合病院と「がん地域連携パス」を使用した連携を強化し、入院治療やがんリハビリテーションなど必要な患者を地域包括ケア病棟で受け入れ、在宅への復帰支援に力を注いでいきます。

また、末期の患者についても地域のケアマネージャーと在宅医療を提供

する医療機関と早期に連携を行い住み慣れた地域で療養ができるよう取り組んでいきます。

② 脳卒中について

神経内科医師が24時間体制で脳卒中関連疾患を受け入れています。2019年度では、脳血管超急性期脳卒中加算を年間19件算定しており、再開通が得られない場合等で脳血管内手術が必要な場合は、常勤の脳神経外科医師と関連大学の医師が、緊急で手術を行う体制を整え、治療を行っています。

また、状態が安定した患者は「脳卒中連携パス」により近隣のリハビリテーションを有した回復期の医療機関と連携し、早期の転院により機能分担を行えるよう継続して取り組んでいきます。

③ 心血管疾患について

循環器内科医師が24時間体制で受け入れを行い、年間117件の経皮的冠動脈形成術等の血管カテーテル治療を積極的に行っています。

また、今後の病棟改修において心臓疾患を中心としたハイケアユニット（HCU 診療報酬の施設基準を満たすもの）を整備し、重症患者が安心して治療できる療養環境を整えていきます。

心臓血管手術が必要な場合は、厚生連安城更生病院と連携し治療にあたっています。

④ 救急医療について

毎年3千台前後の救急車の受け入れを行っています。2次救急の急性期患者だけでなく、在宅や介護施設において急変した慢性期患者も在宅医療機関等と連携を行い、地域包括ケア病棟を活用した治療を行い、在宅等への退院ができるよう「地域包括ケアシステム」における在宅療養後方支援病院としての役割も強化し地域で担っていきます。

⑤ 小児医療について

外来では、地域の医療機関と連携した紹介やアレルギーを中心とした専門外来の診療や心臓・結核等の学校検診等を行っています。入院では、産婦人科と連携しNICU（診療報酬の施設基準を満たさないもの）3床を設け、未熟児や黄疸等の新生児の入院等を行っています。高度な医療が必要な場合は、近隣の刈谷豊田総合病院や厚生連安城更生病院、県あいち小児医療センターへの紹介を行い対応していきます。

⑥ 周産期医療について

周産期医療を継続して行います。高度なハイリスクな分娩については高次医療機関に紹介します。

産婦人科の常勤医師数も少なく分娩の取り扱いについては、今後検討していきます。

(2) 4 機能別の病床の変動

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	合計
2019年度 病床機能報告	0	274	45	0	319
2025年の 病床数の予定	0	210	45	0	255

碧南市民病院は開院から32年が経過し、老朽化した建物の改修や入院患者の生活環境と職員の職場環境を改善するために、令和元年度から病床施設改修計画の策定に取り組んできました。昨今の入院患者数の減少や新型コロナウイルス感染症の方策等を鑑みて、病棟の再編及び病床数の適正化について検討を行い、病床数を319床から255床（急性期病床を64床削減）に変更することとしましたが、ダウンサイジングにより医療機能を低下させることなく、感染者用病床やHCUの整備を行い急性期機能の充実を図り、地域の二次救急医療機関としての役割を果たすべく尽力してまいります。

改修期間は令和3年12月から令和5年3月を予定しており、改修時期に合わせて病床数を削減する予定です。